

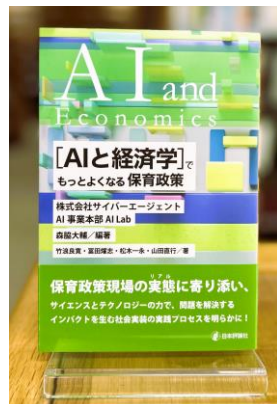


議会図書室からのお知らせ

今月の新着図書
R8年1月（一般用）

『AIと経済学』でもっとよくなる 保育政策』

森脇 大輔【編著】竹浪 良寛 他【著】/
日本評論社 (2025/9)



幅広いAI技術の研究
開発を目的に設立さ
れた「AI Lab(アイラ
ボ)」が、科学と技術
の力で、自治体と共
に保育現場の問題解
決に挑む！
「AIと経済学」を駆使
し、待機児童問題な
どを解決に導く行程
とは？

『2025-2040 変わりゆく医療のアウトラ イン～地域医療構想・医療DX・かかりつけ医 ・就労者不足・働き方改革の予想図』

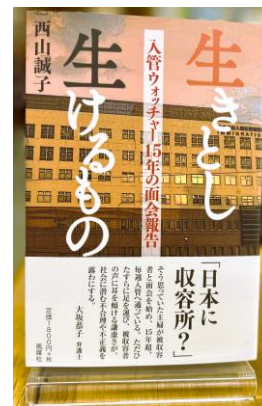
武藤 正樹【著】/医学通信社 (2025/7)



医療・介護制度改革は
待ったなしの状況。
この先15年の変化の
潮流をどう読むか、具
体的に何がどう変わ
るのか、医療機関はい
かに対応していくべ
きなのだろうか？
医療の未来を的確に
指し示す、新たな時代
のロードマップ。

『生きとし生けるもの ～入管ウォッチャー15年の面会報告』

西山 誠子【著】/風媒社 (2025/7)



約10年に渡って名古
屋出入国在留管理局
に通い、収容されてい
る外国人と面会を続
けてきた著者の記録。
人権保護の及ばない
組織の素顔と、囚われ
た人々の真実とは？
「国境は人間の尊厳の
境界ではない」との思
いが綴られる。

『水の戦争』

橋本 淳司【著】/文藝春秋 (2025/9)



「水資源の権者が、国
家から企業へと移行
し、新たな『地政学的
リスク』が生じてい
る」と本書は指摘。
半導体、AI、データセ
ンター等の産業に絡
む「水の戦争」とは何
か？なぜ、水が戦略
的資源となるのか？
その実態に迫る。

『高齢期における格差問題 ～累積する有利・不利とウェルビーイング』

杉澤 秀博・原田 謙【編著】/勁草書房 (2025/11)



日本の高齢者にはど
のような「格差」が生
じているのか？
人々の生活をデータ
から把握し、累積的に
格差が生じるメカニ
ズムを探る。
階層、性別、年齢等が
個人のウェルビーイ
ングに直結しない社
会づくりを目指す書。

『世界は知財でできている』

稲穂 健市【著】/講談社 (2025/8)



AIで様々な物を作り
出せるようになった
現代。
便利な反面、作成した
物が、他人の権利を侵
害してしまうリスク
もある。
そんな「知的財産トラ
ブル」を防ぐための基
礎知識を、身近な例で
わかりやすく解説！

『ニッポンの移民 ～増え続ける外国人とどう向き合うか』

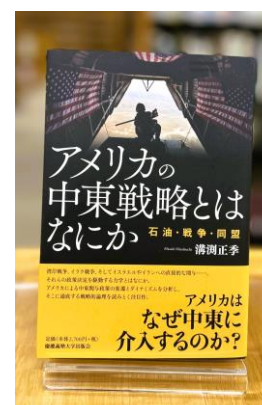
是川 夕【著】/筑摩書房 (2025/10)



労働力不足や世界情
勢を受け、日本への移
民が増える一方、排外
主義的傾向の台頭も
懸念されると著者は
語る。
移民政策の歴史と未
来を考察し、誤解や不
安を取除き、移民を巡
る議論に一石を投じ
る。

『アメリカの中東戦略とはなにか ～石油・戦争・同盟』

溝渕 正季【著】/慶応義塾大学出版会
(2025/8)



アメリカはなぜ中東
に介入するのか？
湾岸戦争、イスラエ
ル・イランへの直接的
関与の政策決定を駆
動する力学は何か？
アメリカの中東関与
政策の変遷とダイナ
ミズムを分析し、通底
する戦略的論理を読
み解く。



本のタイトルには、出版社の本の紹介のリンクが貼ってあります。出版社での紹介がないものは貼っていません。



新着

『エンタメビジネスの教科書 ～対談編』

中山 淳雄・慶應義塾大学教養研究センター【編】
/慶応義塾大学出版会 (2025/11)



エンタメビジネス各界の
線で活躍するプロデュー
サーやクリエイター11人と、
エンタメ社会学者である著
者との対談集。
彼らはいかに「創造」を「ビジ
ネス」に転換できたのか？
その極意を解明する。

新着

『ポップカルチャーによる地域創生 のマーケティング～超えろ3年の壁！』

川又 啓子・田嶋 規雄 他【編著】/千倉書房
(2025/3)



熊本地震後、復興の象徴とさ
れた「くまモン」の活躍、能登
半島地震の災害復興での
ポップカルチャーを活用し
た地域再生など、地域活性化
にどのようにポップカル
チャーが関わっているか、そ
の仕組みと事例を検証する。

『クリエイティブ・ジャパン戦略 ～文化産業の活性化を通して豊かな 日本を創出する』

河島 伸子・生稲 史彦【編著】/白桃書房 (2024/6)



日本の「クリエイティブ産
業」が持つポテンシャルを最
大限に発揮させるための政
策・施策、現状と可能性につ
いて分析、検証する1冊。
気鋭の研究者・実務家が、多
様な専門的視点から、今後の
課題を提示する。

『キャラクター大国ニッポン ～世界を食らう日本IPの力』

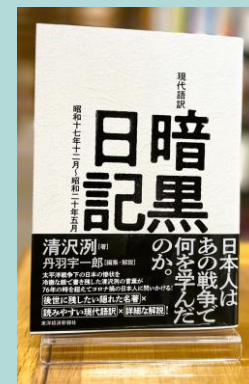
中山 淳雄【著】/中央公論新社 (2025/5)



日本のアニメ・ゲームなどの
キャラクターが世界中に
ファンを作り、多大な経済を
動かすとされ、今注目を集め
ている「IP(知的財産)ビジネ
ス」。
人気キャラクターが生み出
した経済圏を紐解き、ビジネ
ス成功のヒントを探る。

『現代語訳 暗黒日記』

～昭和十七年十二月～昭和二十年五月』



著：清沢 冽 訳：丹羽 宇一郎/東洋経済新報社
(2021年12月)



紹介者：鈴木 敦子 委員

リベラル群馬・高崎市選出・2期

世の中に対する冷静な批評が時に痛快で面白くもあり、と同時に、現代と酷似した状況に戦慄が走ります。なぜなら、この本が紹介する「日記」の舞台は太平洋戦争の真っ只中。軍国主義に陥った政府と、その統制下におかれたメディアや国民の姿、異論や反論を許さない社会の空気は、本来は繰り返されてはならないはずなのに、どこか今に通じるものを感じるからです。

著者の清沢冽は明治生まれの外交・政治評論家。米国勤務経験があり、国内外の情勢に詳しく、反戦主義を貫いた結果、戦時下で迫害を受けました。1945年5月に戦争の終結を見届けることなくこの世を去っていますが、戦後の平和を願い、その年の元日に「当分は戦争を嫌う気持ちが起ころうから、その間に正しい教育をしなくてはならない」と記しています。

戦後80年。さまざまな歴史認識が叫ばれる今だからこそ、当時を生きた人のリアルな証言や思いに立ち返る必要があると思います。ぜひ現代人の必読書として手に取ってみてください。

次号では、追川 徳信 委員におすすめしていただきます！

